令和六年度　入学試験問題　国語（教員養成課程）解答例

※別解がある場合があります。

問一　二重傍線部ａ～ｅのカタカナを漢字で書きなさい。（四点×五＝二〇点）

【解答】　ａ　矛盾　ｂ　系譜　ｃ　糾弾　ｄ　堕落　ｅ　響

問二　傍線部①「〈心の力〉」とは、どのようなものですか。五〇字以上七〇字以内で説明しなさい。（一五点）

【解答例】社会の中で適応的に生活し、心身ともに健康で自己実現をはかりながら生きていくことを可能にする、心理的、社会的な側面にかかわる人間の能力。（６７字）

問三　傍線部②「浄瑠璃」について、次の語句を全て用いて、三〇字以上四〇字以内で説明しなさい。（一五点）

近松門左衛門　　人形　　語り物　　伴奏

【解答例】三味線の伴奏や人形を使った劇を伴う語り物で、代表的作者に近松門左衛門がいる。（３４字）

問四　傍線部③「儒教的人間観」とありますが、次の漢文は、君主の危難を聞き、すぐに駆けつけようとした際の臣下の言葉で、儒教的人間観の一例と見なすことができます。これを現代語に訳しなさい。（一五点）

死レスルハ君ニ義也。無レキハ勇私也。不二以レテ私ヲ害一レセ公ヲ。　（『新序』）

【解答例】君主のために死ぬことは、義である。勇気が無いことは、私である。私によって公を妨げることはしない。

問五　傍線部④「人のおもきうれへにあひて、いたくかなしむを見聞て、さこそかなしからめとおしはかるは」を現代語に訳しなさい。（一五点）

【解答例】他人が重大な悩みを抱えて、ひどく悲しんでいるのを見聞きして、さぞかし悲しいだろうと推し量るのは

問六　傍線部⑤「かなしかるべき」の波線部「る」について、次の例にならって、文法的に説明しなさい。（五点）

（例）愚かなる物なり　　ナリ活用の形容動詞「愚かなり」の連体形の一部

京には見えぬ鳥なれば　　打消の助動詞「ず」の連体形

【解答例】シク活用の形容詞「かなし」の連体形の一部

問七　傍線部⑥「人の心をわが心に置き換えて慮る」とありますが、次の漢文は、これに類似する内容を述べたものです。この漢文を書き下し文にしなさい。なお、「諸」は「諸を」と書き下します。（一〇点）

施二諸己一而不レ願、亦勿レ施二於人一。　（『中庸』）

【解答例】諸を己に施して願はざれば、亦た人に施すこと勿かれ。

問八　傍線部⑦「此こころといふがすなはち物のあはれをしる心也」の波線部「が」に最も近い意味のものを、次の選択肢ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。（五点）

ア　式部がところにぞ、気色あることはあらむ。

イ　雀の子を犬君が逃がしつる。

ウ　めでたくは書きて候ふが、難少々候ふ。

エ　都辺に行かむ船もが刈り薦の乱れて思ふ言告げやらむ

【解答】イ

問九　傍線部⑧「他者との関係性について、彼が師と仰ぐ賀茂真淵とは明確な対照をみせている」について、次の問いに答えなさい。（三五点）

（一）　本居宣長と賀茂真淵は、それぞれ「他者」をどのようなものと考えていますか。違いが明確に分かるように、六〇字以上七〇字以内で説明しなさい。（一五点）

【解答例】本居宣長は、他者を容易に理解しあえないものと考えていたのに対して、賀茂真淵は、他者をもともと相互了解が可能な存在と考えていた。（63字）

（二）　両者の「他者」に対する考え方は、詠歌に対するどのような捉え方として表れていますか。違いが明確に分かるように、八〇字以上一〇〇字以内で説明しなさい。（二〇点）

【解答例】本居宣長は、他者の共感を得るための努力をすることを詠歌の前提としているのに対して、賀茂真淵は、和歌は本来自らの心を直接的に詠むもので、ことさら他者に理解を強要するものではないと捉えていた。（９４字）

問十　傍線部⑨「「直き心」の自然性」とは、どのようなことを意味していますか。三〇字以上四〇字以内で説明しなさい。（一五点）

【解答例】純粋で素直な心は天地の秩序とつながった天地の一部にほかならないということ。（３７字）

問十一　傍線部⑩「声によるコミュニケーションは身体性を伴い、そこに他者と深くかかわる契機が満ちている」とありますが、これに対して、あなたはどのように考えますか。具体例を挙げながら、二四〇字以上三〇〇字以内で述べなさい。（五〇点）

【解答例１】

私は、声によるコミュニケーションには他者と深くかかわる契機が満ちているという考え方に賛成である。私は、高校で演劇部に所属し演劇活動をしてきた。演劇では、声に出して伝えるセリフの言い方がとても重要になる。同じセリフであっても、言い方が少し異なるだけで、他者である観客に伝わる気持ちが大きく異なってくる。伝えようとする気持ちが正しく伝わることにより、観客と一体になることができると思う。このように観客と一体になることは、単に観客が台本を読むだけでは絶対不可能なことである。声によるコミュニケーションは他者とかかわる際にとても重要だと考える。（２６８字）

【解答例２】

私は、声によるコミュニケーションが身体性を伴うということについては疑問である。現代においてはメディアによって声を届けることが可能であり、声が届く空間を他者と共有する必要はない。しかも、たとえばディープフェイクのように本物そっくりの声と身体を合成することもできるようになってきている。このように、声によるコミュニケーションが身体性を伴う場は限られている。むしろメディアによるコミュニケーションが一般的な現代では、他者と深くかかわることを保留し、声によるコミュニケーションが伴っているはずの身体性そのものを批判的にとらえて、他者の存在とその信頼性を確かめることが重要であると考える。（２８９字）